

HOYOG 教区新報

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
(本願寺神戸別院内)
電話 神戸(078)341-5949(代)
【編集】教区基推委広報部

1991. 9. 49号



230名が集まった光行寺本堂

「私にとって宗教とは」

仏教壮年、豊岡に二百二十人

夏休み最後の日曜日となつた八月二十五日、仏壯、丹波・但馬ブロック研修会が城崎組光行寺で開催されました。

当日は西脇正文師（揖尾西組超念寺）を講師に迎え、「閉じられた私、閉じられた世界」と題して、教区発行の新しくなった研修読本第一章第一項を中心に、午前中約一時間の講義をいただきました。

ものに価値を見いだそうとする現代の価値社会の中で私達はそれぞれ、私の思いというものをさしを持っていく。その私の思いの中で、善悪の判断をしている姿こそが、閉じられた私である。私の思いをかなえるために、金や様々な手段を使う

けれども、それがかたわらないときに宗教に頼ろうとする。折ったり願ったりをかなえるために宗教が必要だという、そういう宗教に対する有用性を見いだそうとする考え方は、宗教のあるべき姿と言えるだろうか？

その中で「身の回りにこれだけ多くの宗教があるのは私達の弱さの表れではないか」「ご都合主義と言えないか」「ご都合主義と言えないか」など、私と身の回りの宗教との関わりについての意見や、他、話し合いや仏教活動についての意見も出されました。

西脇師はまよめの助言で「雑多な宗教がある中で、例えば、有用性と真実性、民族宗教と世界宗教、正しい宗教と誤った宗教など、本当の宗教を判断する見極めを持つことが大切であり、仏教活動の目標はおみりのに出遇っていくことにある」と強調された。

ところで、仏壯と同様に仏婦・寺婦の本年度ブロック研修も新しい研修読本第一章第一項を中心に実施され、今後さまざまな研修の場での研修読本の活用が大いに期待されています。

教区だより		9・10月	
10日(火) 常備会	10時半	22日(日)~24日(火) 別院秋季彼岸会	赤松弘淳師(滋賀地区) 1時半
11日(水)~12日(木) 坊守式・坊守研修会	本山・門徒会館	26日(木)~27日(金) 臨時教区会・教区会議員研修会	別院
12日(木) 第4回ビハーラ研修会打合せ会	3時	10月1日(火) 大阪僧伽総結集大会	大阪城ホール
12日(木)~13日(金) 青僧会一泊研修会	四国	2日(水)~3日(木) 第1回教区総代表別院参拝研修会	別院
13日(金) 教化センター常任委員会	10時半	5日(土) 第一土曜仏教講座「往生浄土」武田龍精師	1時半
教化センター委員会	1時半	5日(土)~6日(日) 仏壯近畿ブロック連絡協議会	奈良
14日(土)~16日(月) 別院常例法座 葦原正春師	1時半	7日(日) 別院仏婦永代経法要 竹内俊之師	1時半
17日(火) 少年連盟サマースクール反省会	3時	8日(火) 近畿地区仏教婦人会大会	ワールド記念ホール
17日(火)~18日(水) 全戦没者追悼法要	千鳥ヶ淵墓苑		

近畿仏婦大会

十月八日に神戸で

仏婦近畿大会第四回企画部会と仏婦委員総会が八月二十四日、別院で開催されました。

来る十月八日、兵庫教区の担当で開催される、第十九回西本願寺近畿地区仏教婦人会大会に向けて、企画部では四月から準備が進められており、既に近畿六教区に案内が配布されています。

今回の会場は、昨年教区結集大会の行われた、ポーツアイランドホール（通称ワールド記念ホール）で、テーマは「見つめよう「ダ」のころ」。「ご法話は京都女子高校講師・辻本敬順先生、参加費は一名四千円、参加人数は六千名となっております。日程は◇十時受付・昼食◇十二時、開会式◇一時、ご法話◇一時半、各教区意見発表（総裁さまを囲んで）◇二時半、助言とまとめ◇三時半、閉会式で四時に散会予定です、五時から、新神戸オリエンタルホテルで夕食会も予定されています。

企画部では今回の大会を仏婦の大切な活動の一つである「ご活動」の見直しと機縁とするよう協議が行われており、布施をはじめとする六波羅蜜のうちのひとつに沿って、各教区から意見発表され、西脇正文先生の司会で、総裁さまお言葉、久堀弘義先生の助言をいただき、辻本敬順先生から、まとめをいただきます。

また、開会式前の時間には、須磨ノ浦女子高等学校のビュッグル・コーズ演奏と演技、成徳学園高等学校の新体操演技も披露される予定となっています。

二十四日には、大会までひと月あまりとなり、午前中の企画部会で大綱・予算・当日の進行・その他の各案について協議され、午後西本願寺近畿地区仏教婦人会大会実行委員会として、役割分担なども含めた協議が行われ、準備も大詰めを迎えて、各委員さんも張り切った表情でした。

生前の「苦勞を偲び 謹んで敬弔の意を表します。(敬称略)

播磨東組専応寺坊守	藤井美須子	8月11日	77才
「法泉院釋尼美須」			
神戸東組赫光寺衆徒	幸秀	8月15日	70才
「覺興院釋幸秀」			
朝来組円照寺前坊守	治子	8月23日	84才
「宝蓮院釋尼治教」			
揖尾東組善行寺前任職	護矣	8月25日	90才
「善興院釋護矣」			

HOIHOI

「法」を配って下さい。



好評だったお盆号

◆28日 教化センター総務部会を別院で。先に開かれた建設・財務・広報の各部会での検討事項を持ち寄り各部会長、副部長さん揃っての協議がなされた。限られた予算の中で、より良い計画に行けるように地下駐車場を含めて、建物構造全般にわたって詳細に検討された。また、「ご門徒に説明できる、わかりやすいパンフレットを」という声が説明会で多かつた広報に關しては「事務局もしつかりしなくては」と厳しい意見も出された。十月二日から、教区全寺院総代表別院参拝研修が始まるにあたって、いっそう熱心に協議を重ねる各委員さんで

報恩講の法話を、折り込みの「法」のり」に載せております。

いつものように一部十五円で頒布します。また百部以上の申込みは無料で寺号を印刷の上お届けします。(事務局)



前教区総代会会長、田寺健三氏のお見舞いに行く。肺手術後の苦し

「教えは人なり」

暁天講座の窪田正憲師

今年も八月一日から三日まで、恒例のモダン寺暁天講座が開催されました。三日目には、早朝から、約四十名の門信徒が参詣して蟬時雨の中、窪田正憲師（揖尾西組源徳寺）の「教えは人なり」というご法話を聴聞しました。

今月号では、その要旨の一部分をご紹介します。

教信沙弥の定

私達はお釈迦様のみ教えを仏教としていただいておりますが、そのお釈迦様のみ教えを親鸞聖人を通して浄土真宗といただいておりますことはご承知のとおりでございます。

もう一つ、教えというのは、どういふふうにして伝わっていくのかというところを考えると、教えというものは、そのみ教えをよりどころとして生きる人の姿を通して伝わるものだ」と申せると思います。

き、その教えを依りどころとして生きる。そういうお

かたの毎日の生活の姿を通して教えというものが伝えられていくということ。私達は自分自身の生きる姿と重ね合わせながらしっかりと踏まえていかなければならぬのではないだろうか、と思います。

皆さんご承知かと思いますが、「教信沙弥の定なり」というお言葉が覚人以上の人が改邪抄の中にご紹介くださっております。

「私の生活、生きる姿の依りどころは、教信沙弥のようでありたいと願いつつそう生きたいと思っております。」というお言葉なんです。

教信沙弥のご生活を一口で申すならば、こういうふうに申せようと思います。「大衆の中に凡夫としての日暮らしをお念仏高らかに生き抜きなされたおかた」大衆の中にまぎれ込みながら、名もなければ地位も名譽も何にもない。そして

凡夫そのもの

京都に生まれ、そしてあの天台宗のお坊さんとして当時のいわゆる知識人としては最高の知性・理性の中に磨き上げられなされた親鸞聖人が北陸、越後、そして関東の当時一般の大衆の中に自ら飛び込んでそのなかたがたと生きていくなされた親鸞聖人に対して

当時のかたがたはお師匠さんとお呼びした。それに対して親鸞聖人は、歎異抄第六章です「親鸞におきては弟子一人もたず候」と余り

にも有名なお言葉です。従って「弟子一人もたず候」というあのお言葉は、人の上に人もなければ人の下に人もない。いわゆる縦の一つの身分制度若しくは権力によって貫かれた身分制度を自らの人生で全て撤廃をして、横一列、阿弥陀如来の大きなご本願、お慈悲の前に一人一人のいのちは絶対に等しく平等のものなんだと、まったくの本音の底から叫び上げていな

センター部会が始動



モダン寺暁天講座の窪田師

教務所職員夏季休暇 ◆20日 阪神南組寺族婦人同朋講座を常念寺で。講師は瑞穂光信師 ◆教化センター建設部会を別院で。プロック別院での意見の検討と収支予算案について ◆22日 基推委同朋運動推進専門委員会を別院で ◆門徒推進員役員会を別院で。九月七日に阪神東組源正寺で開催される門徒推進員研修会の当日進行と役割分担について検討 ◆教化センター広報部会を別院で。プロック別院での意見の検討と広報パンフレットについて ◆東西真宗保育研修会を太子町二葉保育園（大谷派浄因寺）で。



教務所職員夏季休暇 ◆20日 阪神南組寺族婦人同朋講座を常念寺で。講師は瑞穂光信師 ◆教化センター建設部会を別院で。プロック別院での意見の検討と収支予算案について ◆22日 基推委同朋運動推進専門委員会を別院で ◆門徒推進員役員会を別院で。九月七日に阪神東組源正寺で開催される門徒推進員研修会の当日進行と役割分担について検討 ◆教化センター広報部会を別院で。プロック別院での意見の検討と広報パンフレットについて ◆東西真宗保育研修会を太子町二葉保育園（大谷派浄因寺）で。

8月1日、4日 全国真宗青年の集いを本山と郡上八幡アクティブサンランドで。教区から十二名参加。本山で顕如宗主顕彰セレモニーと基調講義の後バスで郡上八幡へ移動。都会では味わえない自然の大きさの中で分科会やキャンプファイヤーなど。仏青連盟二十五周年の記念大会でもあったが「なんとなく盛り上がり」に欠ける」とある参加者 ◆1日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日

1ラ専門委員としての経験の中からのお話に熱心に聞き入る参加者でした ◆5日 寺婦連盟運営委員会を別院で。聞法旅行について ◆加古川組住職寺族同朋講座を正福寺で。講師は藤野昌俊師（播磨中組光福寺） ◆6日 前教区総代会長田寺健三氏（網干組常行寺門徒）の葬儀に教務所長参列・達書伝達。氏は姫路市会でも活躍され、長期にわたり会長として尽力くださいました ◆16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日

た。また教区会門徒議員としても在任中であつた ◆7日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日

に、親鸞聖人は教信沙弥の生き方の上に、人生の上に、やはり教えをよりどころとして生きるおかたの姿をしっかりと自らいたさきながら、そして自らもその人生を一步一步大衆とともに、妻を持ち子供を持つておる凡夫そのものとしての日暮らしの中に、ただ念仏をよりどころとして生き抜かさせていただきましよう、と生き抜きなされた親鸞聖人のお姿をこの中から拝見させていただきましよう、と思ふことですね。

ただけ信ずべし ならば親鸞聖人が絶対平等として繋がり世界を真横だけに眺めて行かれたのかというやはりそうではない面がある。それを私はもう一つ親鸞聖人のお言葉の中からいたさきとすると、ならば今日皆さん一緒にいただかれた正信偈であります。

最後一行で締めくくってくださった正信偈の結論は「ただこの高僧の説を信ずべし」です。一つには決意であります。後は、同じ土俵の中で皆さんもこの親鸞とご一緒にいただかせていただきましようとお勧めくださる。この正信偈の最後が私は非常に親鸞聖人の生きなされた人生を通して一つの柱をお示し下さる鍵ではないだろうかと思ふのであります。

大自然、真宗青年集う

25日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日

25日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日

25日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日

報恩講について

今年は話し合い法座

にしけ 西池
てっしゅん 哲俊



んが。

往生はひとりのしのぎ。

しかしそのひとりひとりのよろこび味わいを、ことばでもつてお互い確かめ合い、よろこび合い、ただし合えたなら。そういう寄り合い談合の形をもった「報恩講」こそ歴代宗主のお勧めくださった「報恩講」です。

この度、兵庫教区では新たに「研修読本」を作り、あなたのお手元にお届けしました。この「研修読本」のねらいは、寄り合い談合「話し合い法座」にあります。

従来いつのほどか、ほとんど全く受動的な聞法が主流になっていました。お説教を講演をただ聞くだけ。

よろこびも、ときには疑いも、私ひとりの胸の中だけに納めておくことが、いかにも念仏者らしい妙好人らしいときえ考えられていました。

「研修読本」は、まず誰もが持つ疑問・不審・問いを大事にとりあげています。

その素朴な問いをめぐる「話し合い」の中で、現実を見極めていこうという構成で各章が書かれております。

ことしの「報恩講」。その本来にかえて、この「研修読本」を手にした寄り合い談合「話し合い法座」にはならないものでしょうか。

(出石組・勝林寺)

ご本山はいうまでもなく、全国

どのお寺(浄土真宗の寺であるなら)でも、それから私たちご門徒の家でも、これから年末年初にかけて「報恩講」がお勤まりになります。

「報恩講」というご法要は、浄土真宗をお開きになった親鸞さまをお慕い申すご法要です。

ではその親鸞さまとはどんななかたでしょうか。

まず第一に「宗教」とよばれるものがこの世にはゴマンとあるけれど、しかし、どれも加持や祈祷、どんなにきれいに装おうが、美しい言い回しをしようが、しよせん貧欲に、身のしあわせや自分の利益を神や仏におねだりする、いわば「欲ボケ宗教」ばかりです。

その中にただひとり、お浄土に生まれる真実の宗教は、如来さまのおはたらき《お念仏》以外にはないと、キツパリとけじめをたてて示し顕してくださったかたが、親鸞さまです。「真宗興行の徳」であります。

それから第二番目に、真実の如来さまは、たれあろうこのどろまみれ煩惱まみれの私のために、計

りしれない遠い昔から、願いどおしに願い、働きどおしに働いてくださっている。

つまり、どろ凡夫の私こそ如来さまのまさしきおめあてであつたのだと、親鸞さまは身をもって教えてくださった。「本願相應の徳」をたたえるのです。

第三番目に、親鸞さまは亡くなってから八百年たった今でも、私が「お念仏」申すとき、いつでも私のすぐそばで、「いっしょにいるよ、共に歩もうね、御同朋御同行よ」と、私を力づけ励ましてくださっている。それが「滅後利益の徳」です。

ですから親鸞さまは、私のお父さまのようなかた。

覚如上人(本願寺第三代宗主、親鸞さまのひ孫)は、『報恩講式(私記)』という文章でこのように親鸞さまを仰がれました。

そしてそれ以来、せめて年に一度、親鸞さまのご命日の法要をそれぞれに営み、それを通して、今もこの私に願い、働いてくださる如来さまのおめぐみに気付かせていただきますしようと、『報恩講』という法要をお勤めすることにな

つたのです。

「報恩講」は、私の勝手な欲をおねだりする、そんなうすぎたない法要ではありません。

「報恩講」はまた、誰かのために、勤めてあげる法要でもありません。

「報恩講」は、この私に、いま現に、呼びかけ働いてくださる如来さまの本願力にめざめ、よろこばせていただく法要であるのです。「報」は、ムクイル。ムキナオ

「恩」とはココロのモト。いのちのよりどころです。

つまり私のいのち、なにをよりどころに生きているのか。真実、私のいのちのよりどころはと、「向こうゆきさきばかり」ではなく、「ひとのうえばかり見るのではなく、ふりかえり向きなおつて、

いわゆる「後生の一大事」をこころにかけることが肝要だと、蓮如さま(本願寺第八代宗主)は繰り返して「ご文章」の中でおさとしくださっています。

また、「講」は、木と木を組み合わせからませ合せて建築物を構築すること。そのつくりにごんべ

明日の目的のために

今日を生きて

いるのではない

今日が全部だ



鎌倉花・湯沢町

路をみよ

つまづいたら

ふりかえって

歩いてきた
路をみよ

「報恩講」はもつとも重要な法要

お寺の「報恩講」が近づくと、月忌参りの折などに

「○月○日に報恩講が勤まりますので、ぜひお参り下さい」と勧められているのですが、時たま「報恩講って何ですか？」と尋ねられ、ガツクリとくることがあります。

報恩講は、浄土真宗のみ教えを開いて私たちにお示し下さった宗祖親鸞聖人の、そのご苦労を偲んで営まれる一年でもっとも重要な法要です。

私たちは、先祖の年忌法要には割合、気を配りますが、その先祖の方がたが心から慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人のみ教えを依り所に人生を歩むように」と私たちに願われて

いるのも先祖の方がたです。聖人のご恩を忘れるようでは、せっかくのご先祖の苦労も水泡に帰してしまいます。

私たちが、先祖の年忌法要には割合、気を配りますが、その先祖の方がたが心から慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人のみ教えを依り所に人生を歩むように」と私たちに願われて

いるのも先祖の方がたです。聖人のご恩を忘れるようでは、せっかくのご先祖の苦労も水泡に帰してしまいます。

私たちが、先祖の年忌法要には割合、気を配りますが、その先祖の方がたが心から慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人のみ教えを依り所に人生を歩むように」と私たちに願われて

いるのも先祖の方がたです。聖人のご恩を忘れるようでは、せっかくのご先祖の苦労も水泡に帰してしまいます。

私たちが、先祖の年忌法要には割合、気を配りますが、その先祖の方がたが心から慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人のみ教えを依り所に人生を歩むように」と私たちに願われて

親鸞聖人のご恩に感謝し、聖人がお示し下さった如来さまのご本願を仰いで、お念仏申す人生を歩むのが門徒です。報恩講はそうした私たちにとって、何よりの

各お寺や家庭では、一般に、本山の法要に先立って、年内に勤めるならわしで、そのため「お取り越し」とか「お引き上げ」と言っています。

ご勝縁となる法要なのです。ところで、この報恩講は、本山をはじめ、全国のお寺、一般家庭でも勤められます。本山では、毎年、聖人の御正忌(一月十六日)に合わせて一月九日から十六日までの七昼夜、勤められます。御正忌に勤まるところから「御正忌報恩講」と言い、「御七夜」とも呼んでいます。

これら報恩講のお飾りは、もつともていねいに行い(ローソクは朱色)、法要後は、精進料理のお齋を出したりします。いづれにしても、努めて報恩講のご縁を持ち、お参りをしましょう。

本願寺出版社発行の本願寺末本弘然著「仏事のイロハ」より

本願寺出版社発行の本願寺末本弘然著「仏事のイロハ」より

お仏壇・お仏具のお求めは、創業180余年の浜屋へ

大切にしたい日本の心

やすらぎのある生活
浜屋の願いです。

やすらぎの世界を創る



浜屋

- 岸和田店 0724 45-2211
- 和歌山店 0722 61-2211
- 大阪店 0729 54-2211
- 奈良店 0723 37-2211
- 京都店 06 783-2211
- 神戸店 0720 71-2211
- 姫路店 0720 29-2211
- 岡山店 0726 83-2211
- 広島店 0726 22-2211
- 山口店 06 388-2211
- 徳島店 0727 53-2211
- 香川県店 0727 75-2211
- 愛媛県店 06 413-2211
- 高松店 0798 51-2211
- 愛知県店 0795 65-2211
- 岐阜県店 078 371-2211
- 富山県店 078 621-2211
- 石川県店 078 927-2211
- 福井県店 0794 37-2211
- 新潟県店 0794 37-2211
- 長野県店 0794 43-2211
- 山梨県店 0792 82-2211
- 静岡県店 0790 22-2211
- 愛知県店 0792 76-1316
- 岐阜県店 0791 62-2235
- 富山県店 0791 45-2011
- 石川県店 06 900-2211
- 福井県店 0792 93-2211
- 新潟県店 06 900-2211
- 長野県店 0792 97-2211
- 山梨県店 0792 22-2211
- 静岡県店 0792 88-2211

